水稲病害虫発生予察情報【臨時】　平成３０年９月２８日

神戸西管内で紋枯病が多発しており、紋枯病による倒伏、枯死も見られます。
出穂後に防除を行っていないほ場については株元をよく確認していただき、発生が見られたほ場は下記の通り対応をお願いします。
特に、昨年の発生ほ場は注意をしてほ場内を観察し、来年に向けた対策も十分に行いましょう。

きぬむすめ

刈り取り可能なほ場については、被害が拡大する前に刈り取りして下さい。
※早刈りのし過ぎに注意してください。

ヒノヒカリ・あきだわら

出穂後の防除を行っておらず収穫まで２週間以上ある場合は、ほ場内の発生状況を確認し、下記の農薬を参考に防除を行って下さい。

【防除薬剤】
バリダシン液剤
収穫 14 日前までに散布（500～1000 倍液 60～150ℓ/10a）

次年度に向けて

紋枯病の主な伝染源は、前年発病した稲株に作られた菌核です。菌核は土の中で越冬して代かき時に水面に浮き上がり、稲株へ感染するため、今年の発生ほ場では来年度も発生する恐れがあります。年内に稲株をすき込み越冬菌を減らしましょう。
来年は、密植、肥料の過用などは避け、紋枯病に効果のある箱施用剤等で防除しましょう。

【防除薬剤】
ルーチンエキスパート箱粒剤
使 用 量：育苗箱一箱あたり５０ｇ
使用時期：播種時(覆土前)～移植当日
使用回数：１回

台風２４号が接近しています！

刈取り適期の圃場については、刈取りを行ってください。
その他の圃場については、圃場を確認し、排水対策（水管理）を徹底してください。
※　その他ご不明な点がありましたら最寄りの支店・営農相談員までご相談ください。

【お詫び】緊急臨時情報の為、登録者全員に送付しております。

監修：神戸農業改良普及センター　　発行：JA 兵庫六甲神戸西営農総合センター

第６回　水稲病害虫発生予察情報

平成 30 年 9 月 14 日

調査機関：神戸市西農業振興センター・神戸農業改良普及センター・JA 兵庫六甲
発行：JA 兵庫六甲神戸西営農総合センター

９月１２日、第６回水稲病害虫発生予察調査を実施しました。調査では、カメムシ類やウンカ類の発生が見られました。紋枯病は、今のところ病斑の拡大は見られない場合が多いですが、今後も病害虫の発生をよく観察し、必要であれば収穫前日数に注意して防除を行いましょう。また、台風２０号・２１号等の影響により、米の品質低下が懸念されます。被害を最小限にするため、以下の対策をお願い致します。

【適期刈取りを！】 刈取り適期は、85%以上のモミが黄化する頃です。

- 今年は台風やその後の曇天により作業がしにくくなっています。
- 圃場状態、稲の状態をよく確認し、適期の刈取りに努めましょう！

また、きぬむすめは遅れ穂が比較的出やすく、全体の成熟期が見にくい傾向にあります。圃場に入って数ヶ所から穂をとり、黄化モミの割合を観察することをお勧めします。

【水管理】 収穫が１０月以降の品種では、早期落水をせず、落水までは間断かん水に努めましょう。また、落水は、圃場の乾燥状況に注意して刈取り７日前を目安に行って下さい。早期落水は、粒張りを悪くし、乳白米や腹白米の発生など、米の品質を悪くします。

【台風被害後の排水対策】

倒伏がひどい圃場は、穂が水に浸からないよう早急に排水対策をおこない、コシヒカリなどの刈取り適期の圃場は早急に刈取りを実施してください。

【紋枯病対策】 病斑が、株元から上位葉に上がり始めると収量や品質が低下します。

バリダシン液剤　収穫 14 日前までに散布（500～1000 倍液 60～150ℓ/10a）

～次年度に向けて～

紋枯病の主な伝染源は、前年発病した稲株に作られた菌核です。菌核は土の中で越冬して代かき時に水面に浮き上がり、稲株へ感染するため、今年の発生ほ場では来年度も発生する恐れがあります。年内に稲株をすき込み越冬菌を減らしましょう。

来年は、密植、肥料の過用などは避け、紋枯病に効果のある箱施用剤等で防除しましょう。

【９～１０月のカントリー荷受け】

無化学コシ	９月　４日（火）～　９月２４日（月）←延長
コシヒカリ	９月　４日（火）～　９月３０日（日）
きぬむすめ	１０月　２日（火）～１０月１８日（木）
あきだわら	１０月　２日（火）～１０月１４日（日）
ヒノヒカリ	１０月１０日（水）～１０月３１日（水）
飼料用あきだわら	１０月１９日（金）～１０月３１日（水）

※9月１８日（火）、２５日（火）、10月1日（月）、９日（火）、15日（月）、２２日（月）２９日（月）は荷受け休業日となります。

☆水稲栽培日誌の記帳を必ず行い、刈取り・出荷の一週間前までに JA の各支店までご提出ください。

第５回　水稲病害虫発生予察情報　平成 30 年 8 月 24 日

調査機関：神戸市西農業振興センター・神戸農業改良普及センター・JA 兵庫六甲
発行：JA 兵庫六甲神戸西営農総合センター　　次回調査：９月１２日（水）

８月２２日、第５回水稲病害虫発生予察調査では、ツマグロヨコバイ、ヒメトビウンカ、セジロウンカ、カメムシ類等の発生が増加しています。

今回も、小さなカメムシを中心に数の増加が確認されています。また、兵庫県の防除情報でもカメムシ類増加の報告があがっています。カメムシ類が籾を吸汁すると斑点米となる恐れがあり、斑点米は等級落ちの原因となりますので、適期防除の徹底を心掛けましょう。

また、今回の調査で、葉いもち病・紋枯病の発生が確認されましたので、ほ場をよく観察し状況に応じた対策を行いましょう。

カメムシ類対策

出穂前後の草刈りは、乳熟期にカメムシ類を本田に追い込むことになるのでやめましょう。

出穂後５～１０日頃（但し収穫７日前まで）

スタークル粒剤（3kg／10ａ） もしくは
スタークル豆つぶ（250ｇ／10ａ） を散布しましょう！

【参考】この大きさよりも小さなカメムシ類が増加しています。→

スタークル粒剤と豆つぶの処理時には、水深３cm 程度で散布し、散布後は４～５日は必ず止水をしてください。

株張りが良いところや、前年度の発生ほ場では今後の台風の影響等により発生する恐れがあります！

紋枯病・いもち病対策

紋枯病に　収穫 14 日前まで　**バリダシン液剤**
（500～1000 倍液 60～150ℓ/10a）を散布しましょう！

いもち病・ウンカ類・カメムシ類に
収穫１４日前まで**ブラシンジョーカーフロアブル**
（1000 倍液 60～150ℓ/10a）を散布しましょう！

出穂前後の水管理

・中干し後は、間断潅水を行い、根に酸素を供給しましょう！
・出穂前後（出穂前 1 週間～出穂後 1 週間）はたん水管理をしましょう！

早期落水は未熟粒・死米・乳白・胴割れの原因となるため注意！！！
また、地域一体となった水管理にご協力ください。
水資源は有効に活用しましょう。

早期コシヒカリについては、適期収穫を心掛け過乾燥にご注意ください。
水稲栽培日誌の記帳を行い、ＪＡ出荷の場合は、刈取り・出荷の一週間前までに各支店へご提出ください。

第４回　水稲病害虫発生予察情報　平成 30 年 8 月 14 日

調査機関：神戸市西農業振興センター・神戸農業改良普及センター・JA 兵庫六甲
発行：JA 兵庫六甲神戸西営農総合センター　　次回調査日：８月２２日（水）

８月８日、第４回水稲病害虫発生予察調査では、いもち病や紋枯病などの病斑はほとんど見られませんでした。カメムシ類やウンカ類の発生については、前回の調査結果と比較すると増加しています。

今後の天候により、さらに増加する恐れがありますので、圃場観察をしっかりおこない、対策を心がけてください。

カメムシ類対策　出穂２週間前までに畦畔の草刈をしましょう！

※出穂前後の草刈りは、乳熟期にカメムシを圃場に追い込むことになるのでやめましょう。
カメムシ類を誘引する本田のヒエは徹底的に除草しましょう。

出穂後５～１０日頃、**スタークル粒剤（3kg／10ａ）**もしくは

スタークル豆つぶ（250ｇ／10ａ）

カメムシ類が籾を吸汁すると斑点米となる恐れがあり、斑点米は等級落ちの原因となります。
ウンカ類にも効果があります。

スタークル粒剤と豆つぶ処理時には、水深３ｃｍ程度で散布し、散布後４～５日は必ず止水をしてください。

紋枯病は株元から上位葉鞘に病斑が上がり始める頃が予防適期です！

出穂 30～10 日前に、**モンカット粒剤**（3～4kg/10a）を散布しましょう

いもち病・ウンカ類・カメムシ類に

収穫１４日前まで**ブラシンジョーカーフロアブル**
（1000 倍液 60～150ℓ/10a）を散布しましょう

出穂前後の水管理

- 中干し後は、間断潅水を行い、根に酸素を供給しましょう！
- 出穂前後（出穂前 1 週間～出穂後 1 週間）は幼穂形成期のためたん水管理をして地温上昇を防ぎましょう！
- 高温多照が続く場合は、やや深水管理をしましょう。

☆農薬の使用に当たっては、ラベル等の記載内容を確認し、農薬使用基準等を遵守してください。

☆**8月25日（土）**から早期コシヒカリのカントリーの荷受けを開始します。

☆**水稲栽培日誌**の記帳を行い、ＪＡ出荷の場合は、刈取り・出荷の一週間前までに各支店へ提出をお願いします。

③侵入防止

水口に金網（１～２cm 目）や網袋を設置し用水路からの侵入を防止します。

（４）越冬するスクミリンゴガイを減らしましょう

トラクターでの耕うん

貝殻が薄いため、耕うんで貝を破砕できます。ロータリーの回転は高速の方が効果が高いです。冬季耕うんは、貝が地表に掘り起こされれば、寒さ（-３℃以下）により死滅します。

特に水口、畦畔付近は貝の密度が高いので、丁寧に耕うんしましょう。

（５）必要に応じて薬剤防除も実施しましょう

◎農薬による防除は、深水田んぼなどで、耕種的な防除がうまくいかない場合の選択肢です。必ず上記（１）～（４）の対策とあわせ実施して下さい。

①石灰窒素の施用（農薬としての使用になります）

刈取後か植代前に、耕起後３～４日堪水したあと、粒状石灰窒素（20～30kg/10a）を散布すると殺貝効果が期待できます。散布後４日間は湛水状態を保ち、漏水を防止しましょう。

100%の殺貝は難しいので、他の対策もあわせて行いましょう。

※イネに対しても薬害があるので、植代４日前までに散布しましょう。

※窒素が含まれているので、元肥量の調節が必要です。（石灰窒素 20～30kg で窒素成分４～６kg に相当）

※コシヒカリでは窒素過剰による倒伏のおそれがあります。

②本田防除

スクミノン	１～４kg/10a を散布	収穫 60 日前まで	２回以内
スクミンベイト３	２～４kg/10a を散布	発生時	（有機 JAS 適用）

※湛水状態で散布し、３～４日間は落水やかけ流しをしないでください。

薬剤防除に当たっては、必ず容器のラベルを確認し、使用時期・使用方法や使用量を守って使用しましょう!!

記載内容は平成 30 年 7 月 2 日現在の登録内容です

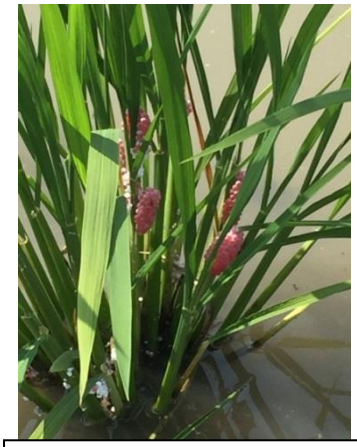
（６）その他の対策

①畑作物を栽培する

貝が発生した田んぼでは、夏作に畑作物（大豆、とうもろこしなど）を栽培すると貝密度が低下します。

スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）対策

発行：JA 兵庫六甲神戸西営農総合センター
監修：神戸農業改良普及センター



イネの茎に生みつけられた卵塊
（鮮やかなピンク色）
H29.7.19　JA 撮影

西区の一部の地域で、スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）が発生しています。田植直後の柔らかいイネが食べられ、被害を受けます。田植 20 日後以降はイネの茎が硬くなるため被害の心配はありません。

スクミリンゴガイ（以下、貝と表記）は繁殖力が強く、用水路や田んぼの土の中で越冬し、翌年に増殖します。一度、発生すると根絶が難しいため、地域全体で発生を拡大させない取組が大切です。発生を確認したら、まず JA 支店にご連絡ください。

長い触覚を持つ成貝
3cm 以上
兵庫県防除指針より

水稲苗を食害する成貝
兵庫県防除指針より

【スクミリンゴガイの防除対策】

（１）田植 20 日後までは浅水管理にしましょう

水深が浅いと貝は活動できず、水深４cm 以下で被害が軽減します。田植え後は、できる限り浅水管理をしましょう。

（２）中苗～成苗を植えましょう

貝は柔らかい小さなイネを好みます。稚苗ほど被害を受けやすいので、中～成苗を植えましょう。

（３）田んぼ内と周辺（用水路など）の個体数を減らしましょう

①殺卵

鮮やかなピンク色の卵は水中では孵化しません。卵塊を見つけたら、潰すか水中にかき落とします。孵化直前の赤黒い卵は、必ず潰しましょう。

②捕殺

捕殺して数を減らしましょう。水たまりに野菜くずなどを置くと、貝が寄ってくるため、まとめて捕殺できます。中干し等の落水時は、水たまりに貝が集まるので捕殺しやすくなります。

（貝には寄生虫がいる可能性があるため、素手で触らずゴム手袋を着用しましょう。触った場合は、良く手を洗いましょう。）

第３回　水稲病害虫発生予察情報　平成 30 年 7 月 25 日

調査機関：神戸市西農業振興センター・神戸農業改良普及センター・JA 兵庫六甲
発行：JA 兵庫六甲神戸西営農総合センター　　次回調査日：８月８日（水）

７月２５日、第３回水稲病害虫発生予察調査を実施しました。

今回の調査では、カメムシ類、ウンカ類などの害虫が見受けられました。適期のカメムシ類対策を行いましょう。また、紋枯病、いもち病の発生が若干みられました。紋枯病は、高温、多湿時に蔓延します。今後の天候次第で広がる可能性がありますので、圃場をよく観察し、紋枯病の対策を行いましょう。

紋枯病対策

株元から上位葉鞘に病斑が上がり始める頃が予防適期です！
出穂 30～10 日前に、
モンカット粒剤（3～4kg/10a）
を散布しましょう！

特に昨年、紋枯病が多発した圃場では、菌が越冬し多発する恐れがあるため注意が必要です。圃場に入って株元を観察しましょう！

カメムシ類対策

カメムシ類を誘引する本田の**ヒエ類は徹底的に除草**しましょう。
出穂後５～１０日頃、
スタークル粒剤（3kg／10a）または
スタークル豆つぶ（250g／10a）を
散布しましょう！
カメムシ類が籾を吸汁すると斑点米となる恐れがあり、斑点米は等級落ちの原因となります。

畦畔の草刈も忘れずに！

※出穂 14 日前までに

高温・多照に注意！！

★作業について
厳しい暑さが続いています。
日中の作業はできるだけ避け、水分補給をしっかり行い熱中症防止に努めましょう！

★圃場管理について
高温・多照が続いているため、圃場がひび割れるような中干しにならないよう注意しましょう。強い中干しは、土の保水性が悪くなり、登熟期の水不足の原因となります。

出穂前後の水管理

①出穂１カ月前には、中干しを終わらせましょう！
②中干し後は、間断潅水を行い、根に酸素を供給しましょう！
③出穂前後（出穂前 1 週間～出穂後 1 週間）は稲が水を必要とするので、たん水管理をしましょう！

早期落水は未熟粒・死米・乳白・胴割れの原因となるため注意！！！

☆水稲栽培日誌の記帳を行いましょう！

第２回　水稲病害虫発生予察情報

平成３０年７月１１日

調査機関：神戸市西農業振興センター・神戸農業改良普及センター・JA 兵庫六甲
発行：JA 兵庫六甲神戸西営農総合センター　　次回調査日：７月２５日（水）

今回の調査では病気の発生はほとんどなく、ウンカ類が少し見られる程度でしたが、一部の圃場では藻の発生がありました。藻の発生やガス湧きがひどいと分げつ抑制や根傷みの原因となりますので、水の入れ替えや一旦落水する等の管理を行いましょう。

今後の天候によっては、いもち病の発生が懸念されますので注意して圃場を観察してください。また、７ 月中旬に入り、平年より高い気温が続いています。天候に応じて、高温障害対策を行いましょう。

適切な中干しを行いましょう！

田植後の生育状況を確認し、目標茎数（２０本）の約８割が確保された頃に、田の表面に足跡が残る程度の中干しを行いましょう。無効分げつの発生を抑え、根を健全に深くのばします。

〇高温・多照　の場合は、背白・基部未熟対策を！

中干しを短縮し、穂肥をやや遅らせ量を増やし、出穂１週間以降は水を入れ替えて水温を下げるなどの対策をとりましょう。

〇高温・日照不足・多雨　の場合は、乳白対策を！

もみ数を減らすため、中干しを強めに行いましょう。
また穂肥をやや遅らせましょう。

雑草対策！※詳細は水稲栽培暦を参照

雑草・藻の多発田では、肥料分が吸われてしまったり、稲の生育を抑制しますので対策を！畔際に多いキシュウスズメノヒエ、イボクサ、クサネムは、あらかじめ手取りで除草した後に除草剤を散布しましょう。

☆ 中干しがまだの圃場･･･【サンパンチ１キロ粒剤】クサネムに効果。収穫６０日前まで
☆ ホタルイ多発の圃場･･･【バサグラン液剤】落水後に散布。収穫５０日前まで
※高温時薬害注意

カメムシ類対策　～早期コシヒカリは草刈りの時期が大切！～

出穂２週間前までに、**水田周辺のイネ科雑草の草刈り**を完了！

時期が遅れると乳熟期にカメムシ類を田んぼへ追い込んでしまうので注意！！

出穂後５～１０日頃、**スタークル粒剤（3㎏／10ａ）**もしくは
スタークル豆つぶ（250ｇ／10ａ）で防除しましょう。

出穂前後の水管理が大切です！！

中干し後の水管理は間断潅水で、根の活力を維持しましょう。出穂前後１週間は湛水状態を保ち、以降はもみを充実させるため間断潅水を行いましょう。

☆水稲栽培日誌の記帳を行いましょう！

第１回　水稲病害虫発生予察情報　　平成３０年７月４日

調査機関：神戸市西農業振興センター・神戸農業改良普及センター・JA 兵庫六甲
発行：JA 兵庫六甲神戸西営農総合センター

今年も水稲病害虫発生予察が始まりました！管内の圃場を巡回し、９月上旬まで２週間に１度、６回の情報をお届けする予定です。次回調査日：７月１１日（水）

6月 27 日(水) 病害虫発生状況

今回の巡回では、大きな病害虫の発生は見られませんでした。兵庫県病害虫防除所によると、近畿地方では、いもち病（葉いもち）の発生が平年に比べて「やや多」との予想が発表されています。断続的な降雨がある場合には、いもち病の感染しやすい条件となり、急激に発生する恐れがあります。水田の観察をしっかりと行い、発生状況に応じて、適期に防除を行いましょう。

また、置苗はいもち病の感染源になりますので、移植後には早期の持ち出しを徹底してください！

ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）の発生が一部ほ場で見られました。発生地域の拡大を防ぐためにも、適切な防除を実施してください。（別紙参照）

今後の発生状況をお伝えしていきますので、防除にお役立てください。

とりこぼし雑草の防除を行いましょう！

一部圃場において、ホタルイ等の取りこぼしや、藻類の発生が見られました。手遅れにならないよう、適期に防除を行いましょう！

商品名	適用雑草	使用時期	10aあたり使用量	使用方法及び特徴	使用回数
サンパンチ 1キロ粒剤	水田一年生雑草、ﾎﾀﾙｲ、ｱｵﾐﾄﾞﾛ・藻類による表層はく離、ｸﾛｸﾞﾜｲ、ｵﾓﾀﾞｶ	移植後15日～ノビエ3．5葉期（収穫60日前まで）	1kg	湛水状態で散布	1回
バサグラン液剤	ﾎﾀﾙｲ、ｸｻﾈﾑ、ｵﾓﾀﾞｶ、ｸﾛｸﾞﾜｲ	移植後15～55日（収穫50日前まで）	500～700ml（散布液量70～100L）	落水後散布 散布後入水まで3日あける。 液剤は高温時薬害注意。 ※イネ科雑草には効果なし	2回以内
クリンチャーバスME液剤	ﾎﾀﾙｲ、水田一年生雑草、ｵﾓﾀﾞｶ、ｸﾛｸﾞﾜｲ、ｷｼｭｳｽｽﾞﾒﾉﾋｴ	移植後15日～ノビエ5葉期（収穫50日前まで）	1，000ml（散布液量70～100L）	落水後散布	
モゲトン粒剤	ｳｷｸｻ類、藻類（ｱｵﾐﾄﾞﾛ・ｱﾐﾐﾄﾞﾛ）	収獲45日前まで	2～3kg	湛水状態で散布	3回以内

・農薬の使用にあたっては、必ず農薬容器、袋のラベル等の記載内容を確認し、適正な方法で使用してください。
・この内容は平成３０年７月２日現在の登録適用に基づいて記載しています。

今後の水管理

田植後の生育状況を確認し、目標茎数の約８割が確保された頃に、田の表面に足跡が残る程度の中干しを行いましょう。土中へ酸素を供給し、根を健全に保ちます。

また、今後の気温の上昇により、ガスが湧きやすくなります。ひどいほ場については２、３日落水し、ガス抜きをしましょう。

☆**水稲栽培日誌**の記帳を行いましょう！

お問い合わせ先
神戸西営農総合センター
TEL:078-961-1277